

全小・社研

・発行所
・全国小学校社会科研究協議会
・東京都台東区池之端 2-1-22
・発行人 吉 藤 玲 子 二
・編集人 澤 田 純

全面实施三年目に向けて

文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官

小倉 勝 登



コロナ禍における学習指導要領
全面実施一年目から見えてきたもの

① 問題解決的な学習過程の充実

実

小学校社会科において、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善は、端的に言えば、問題解決的な学習過程の充実である。この問題解決的な学習過程の充実を図るには、児童が社会的事象から学習問題を見出し、問題解決の見通しをもって他者

と協働的に追究し、追究結果を振り返ってまとめたり、新たな問いを見出したりする学習過程などを工夫することが考えられる。

この新型コロナウイルス感染症が拡大する中で調べ活動や話し合い活動などの制限がかなり、ややもすると、覚えて終わり、調べて終わり、ノートや新聞などにまとめて終わりという活動が展開されることも心配された。しかし、現場の先生方の取組から見えてきたことは、社会科は決まった内容を子供たちに教える、覚えさせることだけでは当然のことながら目標の実現に向かわない、ということである。子供たちが出合った社会的事象に問題を見出し、「解決したい」

と言う思いをもち、調べたり話し合ったりして解決していく学習を工夫しながら展開すること、つまり社会科は問題解決的な学習が大切であることが改めて確認することができた。まさに、それこそが社会科の大切な学びということである。

② 調べ学習の重要性

新型コロナウイルス感染症が拡大する中で制限がかかった学習活動は、調べる学習活動である。子供たちが直接行い観察、見学、聞き取りなどの調査活動は一年間行えなかった学校がほとんどであろう。問題解決的な学習を基本とする社会科においては、「単元などにおける学習問題を設定し、その問題の解決に向けて諸資料や調査活動などで調べ、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして表現し、社会生活について理解したり、社会への関心を高めたりする学習」（解説）である通り、子供たちが問いをもつて主体的に取り組む調べる活動はとても重要である。調べる活動とは、主体的な追究により解決につながる活動であり、社会的事象の意味を考える上で欠か

せない活動である。さらに、実社会と直接関わることにより人の営みに触れ、人の営みを捉えていく活動である。社会科における調べる活動の重要性は、社会科創設時から大切にされてきた学習である。

③ 話し合う活動の重要性

小学校学習指導要領社会（平成二十九年）の目標には、「第五学年、第六学年の目標には「議論する力」の育成が示されており、資料などを用いて説明したり、根拠や理由などを明確にして議論したりする力を養うようにすることが求められている。それは、子供たちは、調べたことや考えたことを交流することで自分の考えを深めることができ、多様な見方・考え方へと鍛えられるからである。話し合うことによって自分の考えを深める、話し合うことによって問題の解決に向かう、話し合うことによって社会への関わり方を選択・判断するなど、社会科の学習において話し合う活動が重要であることは間違いない。

全面实施三年目に向けて

学習指導要領に基づいた授業づくりのためには、大きく次の二点が重要となる。

○学習指導要領の内容理解

内容理解のためには、何度も読んで、その上で実践することが大切である。

○問題解決的な学習過程の充実

問題解決的な学習過程の充実を図るためには、授業づくりにおいて単元を意識して授業を構想することが大切である。単元を意識した授業構想のためには、次の五つで単元を意識するとよい。

①教材研究・学習内容

学習指導要領の読み方を覚えて単元展開をイメージすること。

②学習問題・問い

単元を通して追究する学習問題を設定すること。学習問題と各時間の問いをつなげること。

③学習活動

いつ、どの時間に、どのような活動を行うのか、子供の問題解決への必然性を考えること。

④学習評価

単元の目標とセットで評価規準を設定すること。評価規準を設定することが、単元設計である。

⑤ICT端末

単元や本時の目標の実現のための効果的な活用（場面・活動）を明確にもつことである。

大阪大会報告

全国小学校社会科研究協議会
大阪大会実行委員長 村上昌志



二〇二一年一〇月二十九日、穏やかな秋晴れの下、大阪市立野田小学校、同古市小学校において第五十九回全国小学校社会科研究協議会研究大会大阪大会を盛会裏に終了することができました。吉藤玲子会長をはじめご協力いただいた多くのみなさまに深くお礼を申しあげます。

思い起こせば、神奈川大会目前の昨年九月に示しました本大会一次案内ではコロナ禍の収束を想定し二日間の大会を提示していました。全国の学校が分散登校、オンライン学習などにより「学びの保障」に奔走していた本年六月に示しました最終案内においても、一日開催とするものの全体会に加えて二つの会場校での学年別授業研究会を開催し、あくまで対面での大会実施をめざしていました。しかし、新型コロナウイルス傾向は収まるどころを知らず、月末まで全国の多くの都道府県での緊急事態宣言の延長が決まった九月中旬、公開授業は動画配信で、学年別授業研究会はオンライン開催で、

課題別研究協議は誌上発表とする変更を周知いたしました。間際の開催方法変更にもかかわらず、北海道から沖縄に至る全国各地から四〇〇名を超える申し込みをいただきました。「研究の灯をつなぐ」をキーワードとして、大阪府の心意気を後押しすべくみなさま方にご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。

大会が迫る中、各担当者は参画していただくみなさん方に価値ある大会とするために、ホームページ作成、冊子編集、オンライン学年別授業研究会の円滑な進行に向けた連絡調整、参加の勧奨など日々熟考し、尽力し



てまいりました。コロナ禍で、組織が十分機能しない状況でしたが、会場校の教職員と研究委員が連携しながら創りあげた大阪府の取り組みは全国のみならず胸を張れると自負しております。

本大会では「確かな知識をもとに、よりよい社会を創造できる子どもを育てる社会科学習」を研究主題とし、教育課程、指導法、評価の観点から、子どものよりよい生き方、社会の創造につながる「確かな知識」の獲得を動画により提案いたしました。同様に、文部科学省教科調査官小倉勝登先生に指導講評を、総合初等教育研究所北俊夫先生にご講演をいただきました。両先生の指導講評、講演により、「確かな知識」の獲得をめざす社会科指導の意義と課題を明確にすることができました。研究改善への示唆をいただけたことに心より感謝申し上げます。

【各会場校での授業報告会】

第一会場野田小学校、第二会場古市小学校で、それぞれ三、六学年の計八分科会でオンラインによる学年別授業研究会を実施しました。北海道から沖縄県にいたる全国各地から全分科会合計で三百五十名強の参加があり、授業報告の後、活発な研究協議を行いました。そして、それぞれの協議のまとめとして大阪府社研顧問・OBの先生方に指導助言をいただきました。

【野田小学校】

三年生の地元のソース工場を取り上げた単元導入時の話し合い活動の構成、四年生の天神祭のゲストティーチャーの活用、五



年生の大阪のブランド魚「金太郎いわし」並びに六年生の秀吉の大阪の町づくりの教材化は、確かな知識を獲得させる上で有効であった等のご意見がありました。一方、問いを追究する過程でのグループ分けやカード活用等指導法の工夫、祭りのない地域での教材開発、地元産業を日本全体に広げる単元構成等、課題についてもご指摘いただきました。

【古市小学校】

三年生の千林商店街の教材開発と資料提示の工夫、四年生の古市地区の防災活動を地域・行政・住民の視点から多角的多面的に追究できる単元構成、五年生のY運輸と連携した情報を生かす産業の教材開発、六年生の地域素材の活用と四段階の学習過程の連続は、大会主題に迫る上で有効であった等の意見があ

りました。また、獲得させたい知識の構造と子どもがもつ問いや学習活動との整合のさせ方、教材開発にかかる時間、「どのよう」に「から」「なぜ」へ問いの醸成のさせ方の視点からご指摘をいただきました。

国士舘大学澤井陽介先生、國學院大学安野功先生にはオンラインにより、各会場校の研究について、大会主題により迫るための教材開発や指導法の工夫の大切さを中心に温かくご指導いただきました。厚くお礼申し上げます。

【大会を終えて】

大会を通じて、「問いと知識の構造図」の必要性、概念的知識を獲得する上で地域教材や学習過程(中単元三段階小単元四段階)、そして、その各段階に応じた指導法や評価の工夫の有効性と課題に思いを新たにいたしました。その思いを大阪府社研で共有し、子どもたちのためによりよい社会科指導を実現できますよう研究活動を継続してまいります。

本大会を終えるにあたり、大会運営、指導助言、研究推進に携わられた全ての方に、改めて敬意と感謝の意を表する次第でございます。



第六十回

全国小学校社会科研究協議会研究大会

北海道大会のご案内

全国小学校社会科研究協議会
北海道大会実行委員長

白 崎 正



一 北海道大会のご案内

北海道社会科教育連盟では、令和四年十月二十七・二十八日に「第六十回全国小学校社会科研究協議会北海道大会」を開催いたします。令和四年度北海道社会科教育研究大会担当地区の札幌市が中心となり、研究主題を「社会を知り、世界を切り拓く北国の子の育成」として、新学習指導要領を具現化し、「共生の文化を創る子ども」の育成をめざし、準備を進めています。

新型コロナウイルス感染症の世界的流行により社会は大きく変化しました。デジタルシフト、政治体制や国際状況、産業構造の変化、地球規模の環境問題への対応が求められる時代です。大きな時代の渦の中で、今の大人がすぐには解決しきれない困難な問題が残る未来社会に子どもを導いているか。

もは生きているのです。だからこそ、次世代の社会の形成者になる子どもに、学習指導要領のもと、発想を転換し社会的な見方・考え方を鍛えるための研究実践を提案することに全力を賭す決意であります。

二 大会の概要

① 大会主題

社会を知り、世界を切り拓く北国の子の育成

② 研究内容

北海道社会科教育連盟は、「雪や寒さは宝である」という教材観をもち、「発想を転換する社会科学習」を不易の命題としています。本大会に向け、令和元年度より四か年継続研究主題を「社会を知り、世界を切り拓く北国の子の育成」と設定。現在、令和三年度の実践を分析、吟味、検証、再考しているところです。その視点は、次の通りです。

教材化においては、一見するとマイナスに見えるものを知恵や工夫によってプラスに転換する人間の営みに学ぶ教材化となっているか。

単元構成においては、単元を貫く学習問題は、子どもの変容を生み、社会的事象の本質に子

どもを導いているか。

本時においては、社会的事象の意味を考える本時の問いを追究する中で、子どもは社会的な見方・考え方を働かせて協働的な深い学びへと向かっているか。次年度に向け、さらに研究内容を精査し、主張をシャープに絞り込み、再構成を図っていききたいと考えます。

③ 日時・会場

第一日目 十月二十七日(木)
十三時〇〇分～

開会行事・全体会・大会主題
提案・提案授業・記念シンポ
ジウム・指導講評

会場 カナモトホール(札幌市民
ホール)

第二日目 十月二十八日(金)
九時三十分～十六時四十五分

公開授業・学年別授業研究会・
学年別課題研究会・指導講評

第一会場 札幌市立八軒西小学校
第二会場 札幌市立宮の森小学校

④ 指導講師

全体指導講師

文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官 小倉 勝登 先生

第一会場指導講師

國學院大学教授 安野 功 先生

第二会場指導講師

国士館大学教授 澤井 陽介 先生

※お詫び 全体会場に予定していた「札幌コンベンションセンター」は接種会場となる可能性があり、カナモトホールに変更しました。

全小社研事務局だより

全国小学校社会科研究協議会事務局
東京都世田谷区立代沢小学校長

諸 角 哲 男

全小社研の諸事業につきまして、各単位団体の理事、会員の皆様にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

今年度も新型コロナウイルス対策を行った上で、各事業を進めているところです。十月二十八日に、大阪市教育センターより、第一一回理事会をオンラインで開催し、議事につきましては、承認されました。

一 次年度全国大会の予定

○第六十回全国大会北海道大会
令和四年 十月 二十七日(木)
二十八日(金)

○令和四年度大会熊本大会
令和五年 二月 二日(木)
三日(金)

二 研究集録第五七集の発行

今年度も個人論文の応募をいただきありがとうございます。二月末に、文部科学省教科調査官小倉勝登先生に論文審査をお願いし、優秀論文をまとめた研究集録を三月末に刊行し、配布いたします。

三 各地域の動向の作成

各単位団体の組織・事業計画・研究校を調査し、冊子にまとめ、八月に配布しております。各地域の交流に活用されることを期待し

ています。次年度に向け、三月末より作成作業を始めます。ご協力をお願いいたします。

四 会報「全小社研」の発行

年二回発行し、全小社研の活動が広く全国の会員の皆様に伝わるように努めております。今年度も百六号・百七号を発行いたしました。会報配布では、各単位団体事務局長様にご協力いただきありがとうございます。

五 ホームページの充実

全小社研のホームページには、各事業等の情報を掲載しております。各単位団体情報も随時掲載し、一層の充実を図りたいと思います。掲載やリンク希望は、事務局までお申し出ください。

六 個人会員の募集

全小社研の諸事業は、各単位団体と個人会員の会費等で成り立っています。社会科教育を一層発展充実させていくためにさらに多くの皆様の個人会員としての参加をお願いいたします。

個人会費 年額 一、五〇〇円
郵便振替口座番号
〇〇一〇〇一六―二八二五五七

全国小学校社会科研究協議会